第１投目：緩いやりとりでシーズン初釣果

2013.12 月某日、今シーズン 4 度目の釣行です。11 月に初釣行したときは良型クロを一度浮かしておきながら瀬に入られ針外れ、前回は凶暴サメ三兄弟に見舞われ釣りにならず…今日こそは初クロを！と意気込みながら古仁屋港を 5 時半に出港しました。

釣行者は我々クラブ 3 名を含む計 5 人、北の微風に 1.5mの波とまずまずの気象条件が揃いました。渡船は真っ暗闇な海上を与路島へと向かいます。

私が本日降りた磯は与路島と請阿室島の間に点在する小さな岩の一つ、この辺りはある程度潮見表どおりに上げ下げがしっかり動いてくれるので、釣りのプランを立てやすく好きな海域の一つです。渡礁し荷物を高台に上げ、仕掛けを作り終えると電気ウキなしでも釣りができる嬉しい明るさになりました。

ひとまず撒き餌をしながら潮を観ますが、上げ潮がガンガンに流れており、あちこちで湧昇流が発生、まるで生き物のような複雑な動きをしています。

午前 9 時前、クラブのメンバーからあちこちで釣ったクロの写メが携帯に送られてきます。うらやましく思いながらも『今でしょ！』と自分に言い聞かせながら釣りを続けます。その頃にはその磯でクロが釣れる時に出る魚もある程度揃い、後はクロを見つけるだけの状況に…

上げ流れが弱くなったかな？と感じた 9 時 15 分、沖の湧昇流の中に動きの早い良型の魚を発見しました。距離があるので魚がなんなのかは分かりません。湧昇流の隙間にある潮のヨレをめがけ遠投すると仕掛け全体がうまく潮をつかみ、親ウキごと流れの中に沈んでいきます。その釣りを続けた 3 投目、魚が仕掛けをひったくったのは遠いシモリの向こう側でした。魚はすぐに深みに突進していきます。ここで引っ張っては一貫の終わり、私はテンションを抜きながらやりとりに有利な岩の先端まで移動しました。魚に有利な場所で竿の胴にまで乗せない緩いやりとりを続けていると、シモリとシモリの間の海底付近に白い尾びれの魚が確認できました。『まだ引っ張ったらいかん、まだ…まだ…』とつぶやきながら緩く寄せ、元の釣り座に誘導、なんとかタモ入れした魚は 48 ㎝の今シーズン初クロ！

結局この日はこの 1 枚に終わりましたが、流れの中、人間に不利な場所から結果を得ることができた満足な釣行に。そして、今まで瀬ズレでバラした数々の魚達、『青ブタイ？サンノジ？』と片付けていた魚の中には、良型のクロもかなり含まれていたのでは…と考えて直してしまう釣行にもなったのでした。